

おおま

No. 87
岬の光

平成27年11月2日発行

議会だより



金沢市ボランティアガイド「まいどさん」との懇談会

9月定例議会 主な内容

○平成26年度歳入歳出諸決算

P 2～3

○平成27年第3回定例会

P 4

○平成27年第3回臨時会

P 5

○2議員が一般質問

P 6～7

○報告・編集後記

P 8～12

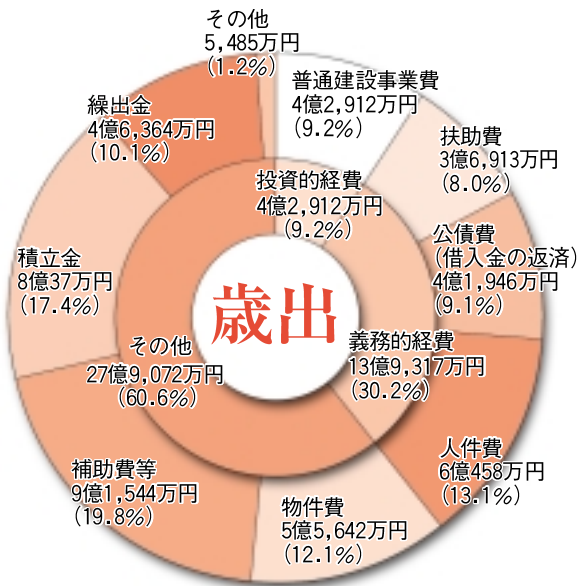
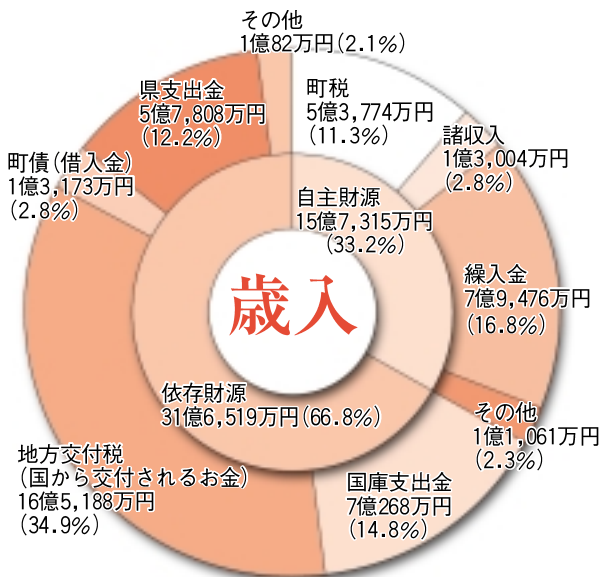
町民一人当たり 借金 7万円

前年比 36%減

歳入 47億3,834万円

歳出(性質別) 46億1,301万円

平成26年度 歳入・歳出諸決算
一般会計の内訳



借金(町債)・貯金(基金)の状況

【一般会計】

	総 額	町民一人当たり	町民一人当たり 対前年(増減)
町 の 借 金 (A)	48億1,813万円	83万円	▲ 2万円
借金に対する国の援助 (B)	43億6,306万円	特定の借金に対しては国から交付税で補てんされます	
実 質 の 借 金 (A) - (B)	4億5,507万円	7万円	▲ 4万円
基 金 (貯金)	37億8,441万円	65万円	3万円

※平成26年度決算の状況(人口:5,744人で計算)

各会計別の予算計上内訳

	当初予算	6月補正	9月補正	11月補正	12月補正	3月補正	3月臨時	専決処分	繰越額	合計
一 般 会 計	39億7,248万円	6,429万円	2億4,854万円	454万円	2億5,977万円	▲3,388万円	4,359万円	1億3,268万円	3,697万円	47億2,898万円
国民健康保険 特 別 会 計	9億8,049万円		3,032万円		1,964万円	3,538万円				10億6,583万円
後期高齢者医療 特 別 会 計	5,266万円		86万円			▲28万円				5,324万円
介護保険 特 別 会 計	5億1,016万円				3,028万円	440万円				5億4,484万円
下水道事業 特 別 会 計	2億3,250万円	▲89万円	▲2,232万円		9万円	▲139万円				2億 799万円

第3回 9月定例会

歳入・歳出諸決算審査特別委員会

平成26年度

歳入・歳出諸決算



一般会計

収入済額47億3834万円、支出済額46億1301万円で、歳入歳出差引残額1億2532万円。規定により基金繰入額1億円とした。

国民健康保険特別会計

収入済額10億5569万円、支出済額9億4346万円で、歳入歳出差引残額1億1222万円。規定により基金繰入額1億1022万円とした。

後期高齢者医療特別会計

収入済額、支出済額は同額の4404万円。

介護保険特別会計

収入済額5億2370万円、支出済額4億9787万円で、歳入歳出差引残額2583万円。規定により基金繰入額2356万円とした。

下水道事業特別会計

収入済額、支出済額は同額の2億404万円。

水道事業会計

収益的収入1億557万円、収益的支出1億5800万円。資本的収入2258万円、資本的支出1億424万円で、収入額が支出額に不足する額8165万円は、当年度分消費税資本的収支調整額231万円、当年度分損益勘定留保資金6037万円、繰越利益剰余金1896万円で補填した。

	資金不足比率	経営健全化基準比率
大間町水道事業計	0.0%	20.0%
大間町下水道事業特別会計	0.0%	20.0%

平成26年度
資金不足比率

	平成26年度	早期健全化基準
実質赤字比率	△ 5.4%	15.0%
連結実質赤字比率	△ 15.9%	20.0%
実質公債費比率	12.1%	25.0%
将来負担比率	△ 26.7%	350.0%

平成26年度
健全化判断比率

※△表示は黒字を表す

平成26年度大間町歳入歳出

決算審査意見書抜粋

一般会計当初予算は歳入歳出とも39億7247万9千円。前年度当初予算に対し1・9%の減となったが年度途中の補正処置の結果、最終予算は47億2898万4千円で、前年対比2・9%の増となっている。

一般会計の最終予算は47億3834万6千円、歳出総額46億1301万6千円となり、歳入歳出差引額は、1億2533万円で翌年度への繰り越し財源は、468万5千円、実質収支額は1億2064万5千円の黒字、また特別会計については、歳入総額18億2749万7千円、歳出総額16億8943万7千円となり、差引額の1億3806万円の黒字となっている。

留意改善を要する事項として、町税の未収額が1億2076万7千円、特別会計の収入未済額は3億6236万7千円で前年度より781万円（2・2%）の増加で、その主なるものは、国民健康保険特別会計2億6910万7千円、下水道事業会計5406万8千円、奨学基金貸付金2596万2千円であるが、未済額の主なる理由は、一次産業の不振に加え、依然として景気低迷が続いていることがあげられるが、納税意識の低迷が根底にあると考えられる。特に国民健康保険特別会計への町からの繰り入れが多額になっており、町財政を圧迫していることが問題で、早急に抜本的改善が必要である。

第3回 9月定例会

平成27年第3回定例会を9月4日開会し、9月9日閉会しました。

本会議に提案された報告2件、認定1件、議案8件、同意1件はすべて原案のとおり認定、可決、同意しました。

平成27年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ12億5390万円を追加し、予算総額53億6125万円とした。

歳入の主なるもの

○普通交付税3億626万円。

○繰入金で水産振興基金（大間漁協）5億5千万円の取崩。

○諸収入で大間漁協経営強化資金貸付金収入3億625万円。

歳出の主なるもの

総務費

○財政調整基金積立金2億円。

○地域福祉基金積立金1億5千万円。

○水産振興基金積立金

（大間漁協）3億625万円。

農林水産業費

○大間漁協経営強化資金貸付金5億5千万円。

教育費

○大間小学校多目的ホール天井等改修工事費1574万円。

国民健康保険特別会計

歳入歳出それぞれ7480万円を追加し、予算総額11億9835万円とした。

下水道事業特別会計

歳入歳出それぞれ2万円を追加し、予算総額2億6498万円とした。

教育委員の任命

賛成8 反対0



再任
佐藤 恵美子 氏
任期 平成29年9月30日

賛成6 反対1（無効1）



再任
高松 大助 氏
任期 平成30年9月30日

賛成8 反対0



選任
小向 英徳 氏
任期 平成31年9月30日

※田村正美委員は、10月16日をもって任期満了となる。

選挙管理委員及び同補充員

任期 平成27年10月18日～平成31年10月17日

● 委員 ●



再任
新井田 義成 氏



再任
菊池 泰進 氏



再任
大内 二郎 氏



選任
木村 和弘 氏

※石澤一昭委員は、10月17日をもって任期満了となる。

● 同補充員 ●

再任 柴田 弘子 氏

再任 山本 稔 氏

再任 山田 征英 氏

選任 柴田 憲明 氏

※木村和弘補充員は、10月17日をもって任期満了となる。

定住自立圏 形成協定の締結

中心市宣言をしたむつ市に大間町が賛同し、連携を図りながら圏域に都市機能及び生活機能を確保。魅力にあふれ、安心して暮らせる地域を形成するため、政策分野において相互に役割分担し連携して取り組む。

奥戸小学校に

太陽光発電

第3回

臨時会

(7月29日)

工事請負契約の締結



奥戸小の太陽光パネル設置工事



平成26年度に大間小に設置した太陽光パネル

○奥戸小学校太陽光発電等設備設置工事

○契約の金額

5432万4千円

○工期

平成28年1月29日

○契約者

野崎建設工業(株)

代表取締役

野崎徳子

◆発電量15kw/h

◆蓄電池15kw

◆照明設置(計44灯)

体育館18灯・廊下9

灯・職員室6灯・児

童トイレ5灯・校長

室2灯・保健室4灯

全てLED対応

※26年度大間小に設置

した太陽光発電装置

と同規模

教育委員会談

東日本大震災の被災地域の復旧・復興や、電力需要の逼迫の対応と、災害に強い自立・分散型システムとして補助金制度が創設され、東北6県に充てられた。大間地域は大間・奥戸両小学校へ太陽光発電と蓄電池を設置。

平成26・27年度で整備することとした。発電量及び蓄電容量とも15kw/h通常の学校運営時に全館分の電気を賄えるだけのワット数はないが、蓄電容量を超える部分が学校施設へ送電されるため、節電と災害時には避難場所として力を発揮できるものと考えている。発電・気象状況が随時モニターを通して放映されることから、児童のエネルギー学習にも役立てたい。

一般質問



岩 泉 盛 利 議員

1 町内会から行政に対する要望について

各町内会から、毎年様々な要望があげられております。

担当課においては、財政が厳しい中で、優先順位を決めながら進めていると聞いておりますが、なかなか進まず見えない状態です。

町長はどのような対応を考えているのか。

町長答弁

町内会からの要望については、地域の皆さんが相談して要望された貴重な意見として認識しております。

要望の多い街路灯・

防犯灯については、できる限り対応しており、また、道路・側溝整備等については、その都度、優先順位を決めながら整備に努めています。

また、事業費の多いものについては、実施まで時間がかかるという懸念はありますが、できる限り住民の要望に応える努力をしています。

再質問

自分の町内会以外の

人から議員の立場で頼まれることがよくあるが、担当課では町内会からの要望でないと受け付けないと言われるため、議員でお願いするのはいかなものか。

町長答弁

例えば、道路の補修・街灯が消えているような場合には、町内会からの要望ではなく、早急に対応すべきものである。地域（町内会）全体として見た時、どういう状況によるものなのか、きちつと受け止めるということが大事だと考えます。対応について庁議等で協議しながら進めていきます。

再質問

7～8年前から要望をあげている場所が、まだ整備されていない。

町長答弁

できる限り、早い時期に要望に応える努力をしています。

2 奥戸春日神社例大祭に係る山車が青森県無形民俗文化財に指定されたが

ています。

山車が文化財に指定されているのに対しては、あつたが、祭典の山車の運行には特にメリットがない。

行政からの支援や各種企業団体からの補助金や交付金の活用など対策はないか。

町長答弁

憲法で規定する政教分離の原則から、自治体の仕事として全面的に支援できないことをご理解いただきたい。

平成22年度から、大間町伝承文化継承事業費補助金交付規程を設置し、運行にかかる費用・備品・消耗品に関する費用の助成をしています。

各山車等の整備については、平成13年度から9年間にわたってコミュニティ事業の活用をしながらあたってき

人材については、役場職員に対しても、地域の住民であることを認識しながら、積極的に参加するよう話しています。

再質問

祭典の運行については電源開発からの職員の協力できていると思う。役場の職員が、もっと協力してくれば運行は可能、地域の

伝統が守れるのでは。

祭典の費用は220万円超であり、うち地域から集まるのは100万円程度のため、残りを神社の一般会計から支払いしているが、それも出せない状況に。

町長答弁

関係者の皆様と一緒に協議をして、継続して祭りができる仕組みを作っていくればと考えます。



一般質問



野 崎 信 行 議員

6 第1原発被ばく避難病院はなぜ大間病院でないのか

町長答弁

大間病院は5キロ圏内に入り、避難対象となるため困難だと認識している。

7 むつ市は弘前大学と産業振興・人材育成の協定を結んだが

町長答弁

今後の進展状況により、検討していく。

13 材木地区の住民オンデマンドタクシーを採用すべき

町長答弁

自治体が支援してい

る路線バスがあり、社会福祉協議会の移送サービスもあるので、現在助成の考えはない。

14 スイスでは核シエルトターを設置しているが

町長答弁

町単独で実施することとは現時点でできない。

15 街路灯・防犯灯LED照明導入し電気カバーをまぐる形に

町長答弁

LED照明については、年度内に完了するように今取り組んでいる。カバーは今回の事業でできない。

18 フェリーからの500万円寄附について町民からアイデアを募集しては

町長答弁

フェリーふ頭の駐車場に活用すべきと考えている。

19 役場庁舎建設についてPF1により建設と新聞報道したが

町長答弁

リース・支払財源を含め研究を進めている。方針が確定した時点で議会特別委員会で説明する。

23 東京・青森県移住センターについて

町長答弁

昨年度の相談件数は79件で、うち10組、14人が移住しており、大間町への相談、移住はなかった。

24 シンガポールでまぐろの販売はできないか

町長答弁

築地経由になると思うが、まぐろ価格等を考えた場合、ハードルが高いと認識するが、今後の検討とする。

25 ふるさと納税で田子町は実績をあげているが

町長答弁

プレミアムの実行について現在、準備を進めている。

26 奥戸川総合流域防災事業で河川キャンプができるようにすべき

町長答弁

当事業は本年度、現地測量調査、28年度に設計、29～31年度まで工事を行う計画となっており、概要がまとまり次第、下北県民局で説明を行う予定となっている。

29 佐井村では弘前大学と協力してやっているで大間町も祭りをやったかどうか

町長答弁

祭典の運行については、それぞれ神社・祭典の組織が努力されており、行政としてできることを支援していく。

30 材木川に浚渫と土留堤の設置を

町長答弁

県と協議していく。

31 フェリーふ頭駐車場の舗装は前々から言っているが

町長答弁

舗装をして、利用者の利便性を考えていきたい。

32 3番坂から折戸までこんぶ拾い道路の改善を

町長答弁

隣接する地権者等と相談しながら検討する。

34 さる・カモシカ・くまの頭数調査は

町長答弁

さるは調査しているが、他はしていない。

35 大川目に100mの水路側溝を入れるべき

町長答弁

水路を利用している農業団体と協議していく。

37 小奥戸に斜路を建設せよ

町長答弁

可能性について県と協議していく。

38 大間小学校からブルスカイまでの道路建設を

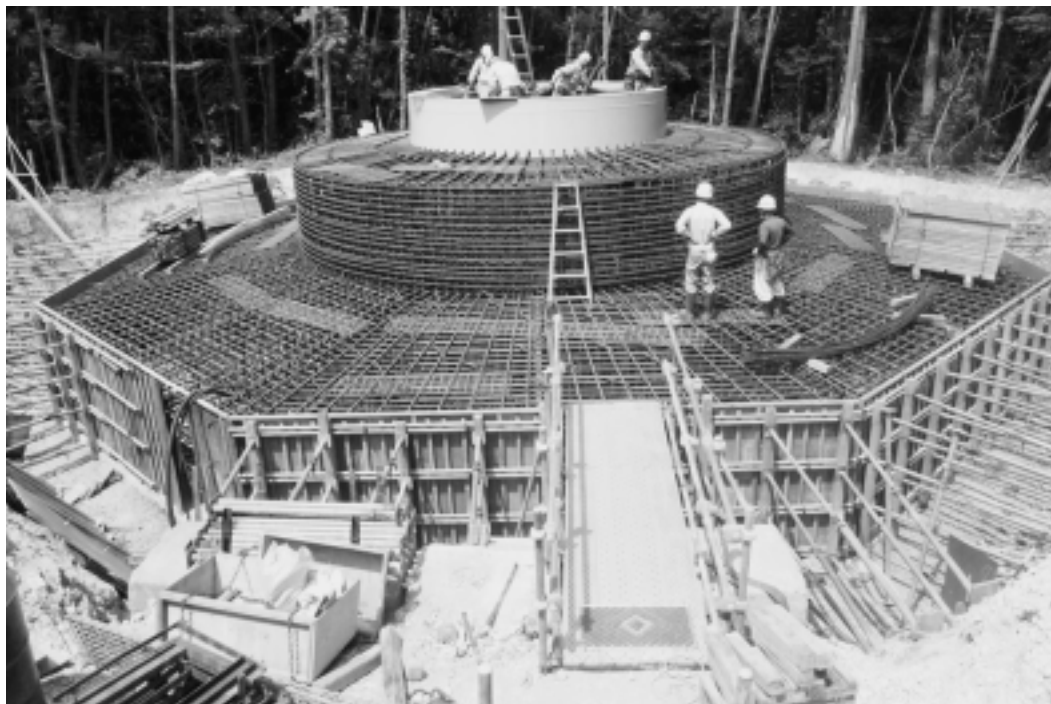
町長答弁

既設道路の整備を優先させ、将来構想の参考とする。

※全42質問の中から、抽出して19質問を掲載。

大間風力発電 風車設置現場視察

視察研修報告



平成27年7月16日、
全員協議会(全議員参加)に於いて、(株)ジェイウインド大間より状況報告がなされ、報告終了後、大間牧場周辺に計9基「総出力19,500kW」建設中の工事現場を視察した。

平成28年3月営業運転開始を予定。

鉄筋の組み立て状況、型枠設置の状況、脱型状況がづぶさに見られ、架台が完成した後から、クレーンにより現場でタワー・ナセル・ローターと吊り上げられ、組み立てられていく状況はまさに圧巻、ハブの高さ78m、ローター直径82mは見えてすごい。ここで起きた電気は東北電力に売電される。



県下町村議会 議員研修会

7月9日、リンクモア平安閣市民ホールに於いて、青森県町村議会議長会主催による県下町村議会議員研修会が開催されました。

青森県知事、三村申吾氏を講師として、青森県重点施策提案と題して約1時間のご講演をしていただきました。



使用済燃料中間貯蔵施設 視察 (リサイクル燃料備蓄センター)



7月10日、むつ市関根にある、東京電力(株)と日本原子力発電(株)の共同出資により、2社の原子力発電所から発生するリサイクル燃料の貯蔵・管理を目的として設立された、リサイクル燃料貯蔵株式会社を視察し、担当者から詳細な説明を受けました。



大間原子力発電所 対策特別委員会報告

原発工事が1年延期!!

工事再開予定は平成28年11月頃

平成27年9月4日、大間原子力発電所対策特別委員会が開催され、電源開発(株)より新規基準適合性審査の対応状況等について、次のとおり報告がなされた。

1. 原子力規制委員会の審査会合は計6回開催されたが、プラント関係の開催実績がないこと、下北半島西部の隆起メカニズムに係るデータを取得するための地質調査を追加実施することなど、これまでの適合審査の状況を踏まえると、審査・許認可期間については、さらに1年程度要するものと想定。

2. これに伴い、安全強化対策工事開始は平成28年11月頃、終了は平成33年12月頃となる見通し。

これに対して、各委員から、本当に1年で大丈夫なのか、見通しが甘いのではないか、商工事業者が大変などの意見、懸念や批判の声があいついだ。

また同時に、南之園本部長は町の地域振興策などの実現にも影響をおよぼすことになるとして、「町と相談して発電所の運転開始時期に関わらず、町の財政支援要望などを踏まえた各種地域振興策等について、具体的、着実に実現に向けて協力したい。」と述べた。

(記)宮野



町村議会広報研修会

平成27年8月27日、青森市ウエディングプラザアラスカに於いて、青森県町村議会議長会主催による、町村議会広報研修会が行われました。

町民が読みやすい広報、親しまれる広報づくりをめざして毎年行われており、広報編集委員6人と議長が参加して広報作成のポイントや、注意事項などについて研修をうけてきました。

今回は議会広報サポーターの芳野政明先生による

1. 住民に読まれ、議会活動が伝わる
2. 町村議会広報のクリニック

と題して講演がありました。



我々、広報編集委員は大間町町民に親しまれる議会広報づくりのため研修会等に積極的に参加し、技術を磨き、町広報と議会広報の違いを町民の皆様が

はつきりとわかるように、また、次回の広報発行を待ってもらえるような広報づくりに取り組んでまいりますので、皆様のご意見等をお寄せください。

原子力規制委員会HPが

ネットで見れるよ!!

9月4日開催された大間原子力発電所対策特別委員会で、電源開発(株)より工事再開予定を1年余り延期したいとの報告があったが、住民・工事関係者・議員からも早期の工事再開をと、声上がり始め、原子力規制委員会への批判ともとれる発言も聞こえてくる。

そもそも、規制委員会はなぜ設立されたのか?を考えて戴きたい。未曾有の被害をもたらした東日本大震災の反省を踏まえ、誰からも束縛されず、原子力発電所の安全を多方面から純粹に審議するために作られた組織で、原子力発電所の設置を認めた大間にとっては力強い味方だ。

早期の工事再開と、安心・安全は同義語ではないはずで、より安全な発電所を作ったためには必要な時間

だと思う。

ではなぜ規制委員会に批判が向くのか。

多分、審議の内容が一般に知られていないから不満が出るのでは。そこで皆さんに知らせたい。

パソコンやスマートフォン、インターネットの検索サイトの検索ボックスに

「規制委員会審査会合大間」

と入力し、出てきた画面の

「大間原子力発電所関連審査会合」

を選択します。

すると大間原子力審査会合の「会議映像」や「会議資料」を閲覧できる規制委員会HPが出てきますので、

お願いですから、関心を持って是非検索を試みてください。

(記)加藤

報告



金沢市内 長町武家屋敷跡視察

平成27年10月13日より16日まで、石戸議長はじめとして、宮野副議長・竹内勝雄・加藤正喜・野崎信行・千代谷誠・竹内弘・岩泉盛利各議員（自席番号順）尚、正根秋雄議員は病院予約のため欠席。行政から企画経営課の岩佐育夫課長・事務局からは松原俊逸事務局長・笹谷妙子局員の総勢11名で、北陸の

金沢市・白川郷・富山市・横浜市の磯子火力発電所（電源開発株）の視察研修を実施してきました。

「視察目的」

北海道新幹線「新函館北斗駅」開業が28年3月26日に正式決定の運びとなり、懸案であった函館からの観光客の取り込みを実現するためには何が必要か、北陸新幹線開通で一大ブームに沸く金沢市と、富山県氷見市氷見漁港場外市場氷見番

屋街、どぶろく祭りが開催されている岐阜県白川郷に集客のヒントを探るべく視察をした。

城下町金沢。加賀百萬石の歴史はもとより、伝統工芸・伝統芸能・食文化とけたはずれの金沢市、だが、歴史・伝統だけで年間700万人もの観光客が訪れるだろうか。

同じことが白川郷にも言える。茅葺屋根の古民家と歴史に彩られた自然だけの里。そこになぜあれほどの観光客が訪れるのか。

両観光地を視察して感じたのは「人」と歴史を重ねる「郷土愛」の深さだ。

「金沢市伝統環境保存条例」の、こまちなみ保存区域指定地域（歴史的町並み・景観保全）に住民の協力意識は並々ならぬものを感じたし、世界遺産の白川郷も、あの景観を維持するため、住民の

苦労は計り知れないだろう。大間の参考になる事例を一つ挙げるとすれば、金沢市にボランティアガイドの会「まいどさん」が挙げられる。会員登録数342名。「金沢ボランティア」の終了生で組織され、市が事業継続に積極的にバックアップしている。毎年会員希望者が多数のため試験を実施しているという。

そもそもこの組織の生みの親は元市長との事。

白川郷も当日のどぶろく祭り参加・協力のため、多くの商店は休業して、協力体制が希薄なため、祭りも出来ない大間地区とは雲泥の差だ。考えてみれば大間も昔は「ゆい」（大間ではゆいこ）と言う相互扶助の精神があったのだが。

（記）加藤

編集後記

暑さ寒さも彼岸までといいますが、今年も余すところ二ヶ月ほどとなり、日増しに寒さが身に染みる季節となりました。

今、町役場ではインフルエンザ予防接種費用の助成を行っております。予防接種を受け、この冬を元気で過ごしましょう。

インフルエンザ予防接種費用の助成対象者について、詳しくは住民福祉課へお問い合わせください。

（記）竹内弘

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 弘

宮野 昭一